

明日に向かって

ともに創る

108

大船渡市長 戸田公明

各種税金などの支払いは

口座振替の利用を

昨年、新型コロナウイルス感染症対策として全国民に10万円が支給されました。支給までには、自治体による手作業による申請書郵送と、返信された申請書の確認を経て数カ月かかりました。

一方、他国ではインターネット申請後、数日で個人銀行口座に支援金振り込みの事例などがニュースで紹介されました。

結果、見えてきたのが、日本の行政手続きデジタル化の遅れでした。現在政府は、今秋デジタル庁を立ち上げ、5年間で国・地方自治体の情報システムの標準化・共通化を推進すべく準備中です。

市としても国に合わせ、市役所内システムのクラウド化、簡易業務の自動化（RPA、OCR、AIなど導入）、マイナンバーカード普及促進、インターネット申請導入、デジタル専門職員の新規雇用など、さらなる

デジタル化を推進していきます。

そのような中、年間約31万件にのぼる各種税金・料金などの支払い方法を確認したところ、口座振替が約20万件、窓口支払い約7万件、コンビニ支払い約4万件です。

口座振替は、一度申込書を金融機関に届けば、その後はわざわざ支払い窓口まで出かける必要がなく大変便利です。

窓口支払い・コンビニ支払いの負担感は、支払者一人一人にすれば、年間数回のみで、さほど手間ではないかも知れませんが、しかし、口座振替の場合、市は通知書のみを送送すれば良いのに対し、窓口支払い（コンビニ支払いを含む）の場合、市は通知書と支払い票（支払い回数分）を約11万件準備しなければならず、膨大な作業量があります。人口減少・少子高齢化が進む中、このような手間作業は、生産性向上のためできる限り少

なくしたいと考えています。

窓口支払いを受ける金融機関にしてみても、約7万件は手間のかかる業務です。これも口座振替により生産性の向上につながります。また、窓口支払いの市民の皆さんにとっても、窓口を足す必要もなくなり新たな自由な時間が生まれます。このように、口座振替は社会の生産性向上につながります。

今後は準備でき次第、順次、口座振替依頼書を納税通知書に同封しますので、まだ利用されていない人は、申し込みを検討するようにお願いします。

併せて、マイナンバーカードは行政のさらなるデジタル化の切り札です。今後はますますマイナンバーカード保有による利便性が増えます。本人確認の際の公的な身分証明書であることはもちろん、本年3月からは健康保険証としても活用できますし、令和6年度には運転免許証として使えるように政府は検討中です。また、数年後にはマイナンバーカードを通じて、さらに多くの行政手続きのインターネット申請ができるようになり、各段に利便性が向上します。まだ取得していない人には、是非とも取得するようにお願いします。

宝くじの助成金で コミュニティ活動備品を整備しました



綾里地区まちづくり委員会では、宝くじの助成金でコミュニティ活動に使用するアルミワイドテントや音響セットなどの備品を整備しました。

市内ではこれまでに、53の団体が宝くじの助成を受けています。

■宝くじ助成とは

（一財）自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源としたコミュニティ助成事業を実施し、コミュニティ活動備品整備や共生のまちづくりなどに対して助成しています。

詳しくは、問い合わせください。

▷問い合わせ先＝市民協働課（☎内線278）



【アルミワイドテント】



【音響セット】